

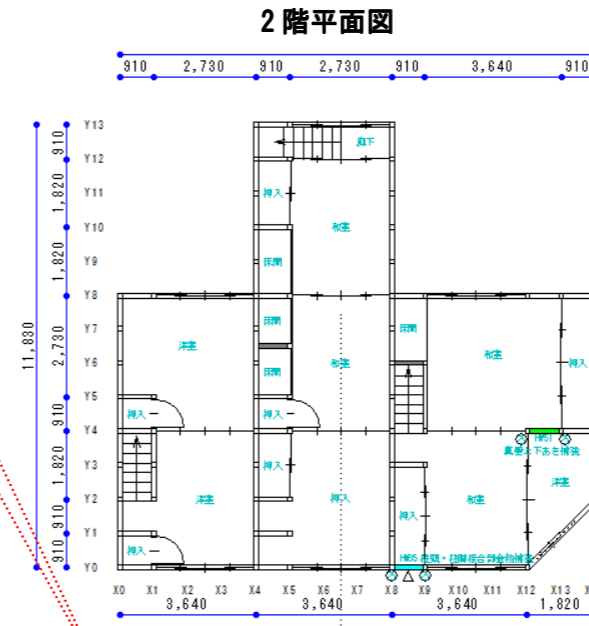
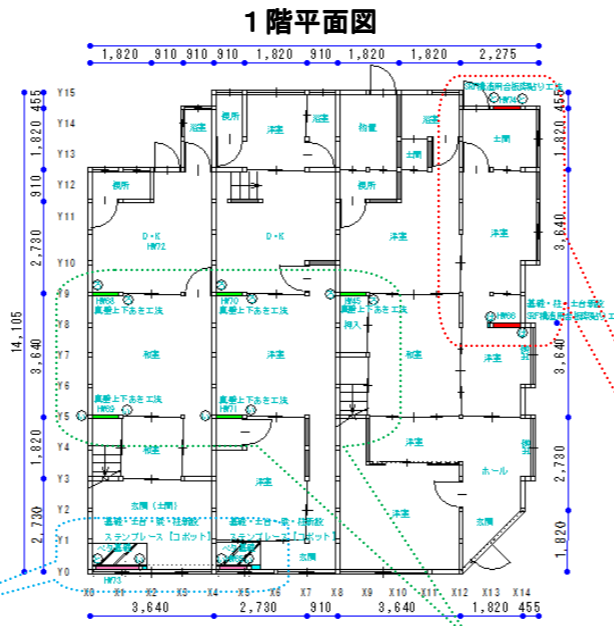
優秀賞・審査委員特別賞

【工法の種類】 部分開口「真壁上下あき」・  
木造 SRF 壁補強工法・コボット

【応募者名】  
日本住宅耐震補強株式会社



2間の開口部に耐力壁【ステンブレースコボット】を新設  
既設の壁通りでは大がかりになるので、基礎・柱・梁を新  
設し、壁通りをずらした。また通風・採光を確保するため  
ブレースをあらわしとし、仕上げの違和感を軽減した。



部分開口 構造用合板【真壁上下あき】



【SRF壁補強工法】

構造用合板にSRFテープを貼り、釘を  
増打ちすれば、耐力が約2倍になるので  
補強箇所を減らすことができる。

居住スペースでは愛知減災協議会独自工法の  
構造用合板の部分張りを採用した。  
短工期・低コストを実現するために有効な工  
法のひとつである。



建築年	昭和 10 年
1階床面積	174.73 m <sup>2</sup>
2階床面積	107.65 m <sup>2</sup>
延べ床面積	282.38 m <sup>2</sup>
耐震診断値	改修前：0.43 改修後：0.72
改修工事費	1,100,000 円
工事期間	8 日間

古い3軒長屋の改修事例です。  
借家人への負担を減らすため短工  
期・低コストをテーマにしました。

【講評】

3軒長屋の大家さんの居住者への配慮により、耐震改修に至った経緯がありますが、居住者が住みながら、出来るだけ居住空間を確保し、床・天井を解体しない最小限の改修により評点を0.7以上に上げ、少しでも耐震化に寄与した努力と短い工期や開口部を塞がずに採光を生かした工法を採用するなど耐震改修手法に工夫が随所にみられるため、優秀賞と審査員特別賞に値するものと思います。